乳幼児健診の実施状況に関する研究

青木　　徹[1)]

要約：現在行政的に行われている、乳幼児健診の受診率は高く、受診して良かったとする母親が多く、定着している、疾病の発見、身体発育の評価については、精密検査、事後指導なども含めて、健診が有効に行われている一方、運動発達、精神発達の遅れについては、事後指導も不十分であり、今後の充実が待たれる。

見出し語：乳幼児健診、乳児健診、１歳６ヵ月健診、３歳児健診

１．乳児健診

ア　対　　象　　３～４ヵ月児

イ　実施方法　　個別あるいは集団

ウ　結　　果

対象児２１８６名、受診児１７９０名、受診率８１．９％であった。このうち集団５２６名（２９．４％）個別１２６４名（７０．６％）集団では要指導が２７３名と多く、個別で２８名と少なかった。

集団での要指導の内容は育児、離乳、スキンケアなどにつき保健婦が指導を行った。

要観察数、要精密数、要治療数に集団、個別で差は認められなかった。

エ　健診の現状、問題点

個別健診の良い点は、都合の良いときに受診できる、家の近くで受診できる、主治医を持つチャンスになる。継続して経過をみることができるなどである。

問題点としては、医師だけで健診が行われるために、他の職種とチームで対処できない。その医師の健診に対する考え方、知識、技術に左右される。栄養士がかかわらないので、離乳食などの栄養指導が不十分になりやすい。保健婦がいないために保健指導が不十分になりやすいなどである。

また頸定の遅れ、身体発育の遅れ、精検児などのフォローアップの現状が保健センターで把握しづらい。診査票が保健センターに戻ってくるのに時間がかかり未受診時の勧奨が出来づらく、時期を逃してしまうなどである。

集団検診の利点は、チームで対応出来て、システムにも乗りやすい、経費が安いなどであるが、受診日を選べない、遠距離であるなどのデメリットもある。

１）　埼玉県草加保健所

健診で見つかる身体異常は軽度のものが多い。精検紹介となるものは心雑音、血管腫、開排制限、内斜視、湿疹などである。

経過観察となるものは頚定が不完全、筋緊張の亢進、そり返りが強い、身長、体重の増加が悪いなど、発育発達に関するものが多かった。

オ　今後の方向性

疾病の発見よりも、育児、発育、発達、母子関係などに重点を置いた健診が望まれる。また個別健診を希望する場合が多いので、医療機関と保健センターの連絡を密にして、個別健診で問題のあった児もシステムに乗れるようにする。他のスタッフの指導も受けやすくするなど必要がある。

2　1歳6か月健診

ア　対　　象　　1歳6ヵ月～1歳8ヵ月

イ　実施方法　　集　　団

ウ　結　　果

対象児２１５３名中受診児１８７０名で受診率８６．９％、要指導は１１８２名（６３．２％）であった。

要指導の内容は、夜泣き、かんの虫が強い、生活リズムのみだれ、遊ばせ方が分からない、断乳、むら食い、偏食等についての保健指導が多かった。

精神面の注意すべきものの項目ではことばの遅れの訴えが大部分を占める。体重増加不良、転びやすい、斜視などの相談も多かった。

エ　健診の状況、問題点について

身体的異常の発見は少ない。ことばの遅れについての相談が多い。しかし本当は問題のあることばの遅ればかりでなく、中には心配のないものも含まれる。

保健指導する場合、ことばの発達の正常範囲の知識、経験を積んで対応する必要がある。そうしないとただ親の不安を高める結果となる。要指導では栄養面の問題が多い。偏食、むら食い、乳酸飲料・牛乳の飲みすぎ、咀しゃくが不十分などが多い

オ　今後の方向性

栄養面の指導を充実する、発達についてのチェック及び援助、特にことばの遅れに対する反応を強化する、情緒、精神面についても対処していく。

3　3歳児健診

ア　対　　象　　3歳～3歳2ヵ月

イ　実施方法　　集　　団

ウ　結　　果

該当児数２１８６名中受診児１８４２名受診率は８４．３％、何らかの問題のあった児は身体面で７８名、精神面で１０７名であった。

精密健診票は３３名が使用した。要指導の内容はトイレットトレーニング、ことばの遅れ、指しゃぶり、爪かみ、近所に遊ぶ子供がいない、良く噛まないなどであった。

身体的問題点では、心雑音、斜視、低身長、X脚、湿疹、停留こうがん、そ径ヘルニアなどであった。

エ　今後の方向性

身体的な疾患では、軽いものが大部分である。今後も特に問題ないものと考える。

発達の遅れ、特にことばの遅れが多いので事後措置の体制作りも考慮しながら対処していく必要がある、発育面では、低身長、肥満に注意する。

成人病予防について、栄養、食生活の指導を行う。行動、精神面にも力をいれていく。

聴覚、視覚、検尿についても充実していく必要がある。

4　1歳6か月継続相談

ことばの遅れ、全体的な発達の遅れを訴えるものがほとんどである。1ヵ月1回行っている。

相談予定数に比して実際の来所数が少ない。また中断することも多く、問題である。

軽快せず、次年度への継続、さらに3歳児二次相談まで継続することも多い。

5　3歳児2次相談

発達の遅れ、主にことばの発達に遅れがある3歳児健診後の幼児に対して行動観察を行い、また母親にもことばかけなど家庭での接し方を助言している。月に1回の開催である。

来所予定人数に比べて、実際に来所するものが少ない（次第に改善してきている）。1年間の来所回数は1～2回のものが多い（次第に回数は増加してきている）。翌年に継続するものも多い。

保育所、幼稚園に通いながら参加する児もいる。また、母親だけ相談に来ることもある。

6　乳幼児発達相談

身体発育、運動発達、精神発達の遅れのある乳幼児について保健所において2次健診を行っている。

平成元年度受診児の初回処遇の内訳は異常なし20．5％、経過観察71．8％、医療機関紹介は7．7％であった。

7　ことばの教室

ことばの発達の遅れている幼児に対して、主にポーテージプログラムを使用して言語訓練を平成4年度から開催した。

8　健診についての母親に対する
　　アンケート調査

3歳児健診受診の母親に対してアンケート調査を行った。多くが健診を受けて良かったと答えている。

我々健診を実施する側では今後の方向性して、栄養、保育など健診で重視すべきであると考えているが、このアンケートの結果では、発育、発達、病気の発見について期待するとの結果であった。

また異常が発見された場合には、始めから専門機関への紹介を希望するものが多かった。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:現在行政的に行われている、乳幼児健診の受診率は高く、受診して良かったとする母親が多く、定着している、疾病の発見、身体発育の評価については、精密検査、事後指導なども含めて、健診が有効に行われている一方、運動発達、精神発達の遅れについては、事後指導も不十分であり、今後の充実が待たれる。